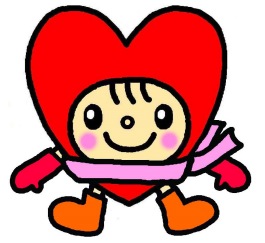




# 2019年 人権一口講座



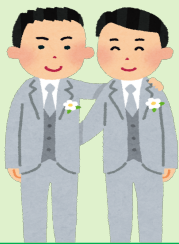
## 2018年の流行語大賞から

昨年の流行語大賞は「そだねー」でした。たしかに平昌オリンピックではカーリングが注目を浴び日本中が盛り上がりを見せ、真剣に闘う選手たちが時折見せるほほえましい癒しの言葉が「そだねー」でした。私が昨年衝撃を受けた言葉は流行語大賞のトップテン入りのしていた別の言葉でした。それは、「おっさんずラブ」。最近、日本のドラマの中で性的マイノリティ（LGBT）に関するドラマが多くなってきているように感じていましたが、直球のタイトル「おっさんずラブ」に度肝を抜かれました。土曜の23時15分から翌0時5分までの深夜番組でしたが人気を集め、いわゆる視聴率ではなくSNS上での盛り上がりを表す「視聴熱ランキング」ではドラマ部門でベスト2にランクインしたほどのブームとなりました。そして、まさか年明け早々には深夜ではなく昼間にこれまでの「おっさんずラブ」が連続放送されているのにビックリしました。昨年度はLGBTの方に向けて「生産性がない」「同性愛は趣味みたいなもの」といった国会議員による発言があり、それに対して批判する声が多く上がり、少しずつ性的指向・性自認の多様な在り方を認める社会になってきているのかなと思います。しかし、今年に入ってから「LGBTばかりになったら国は潰れる」といった発言がまたもや国会議員からあがっています。

電通ダイバーシティ・ラボによる最新の「LGBT調査2018」では、性的マイノリティの割合は全体の8.9%で11人に1人という計算になります。前回の調査の7.6%から増えています。LGBTに関する一般の理解が進んだことが要因とみられます。自分の周りにはLGBT当事者はいないと思われるかもしれませんが、しかし、当事者といえないだけで、間違えなく私たちの身の回りに当事者がおり、打ち明けられずに生きづらさを感じたり、心無い差別の言葉に心痛めている人がいたりすることを忘れてはいけません。LGBT当事者は生きづらさを感じ自殺を図る人も少なくなく、命にかかわる問題であることを私たちが認識しなければいけません。

熊本市でもパートナーシップ宣誓制度の創設に向け準備を始めています。これまで同性愛カップルの婚姻が認められず不都合な面が多々ありましたが、パートナーシップ宣誓制度により生活がしやすくなるのが期待されます。しかし、周りの理解が進まなければ居心地よく生活することもできません。多様な人々の人権を尊重できる誰にとってもやさしい社会にするためにお互いを正しくしっかり理解することが大切なのです。

（熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」平成三十一年二月号より）



短いメッセージ 友だちと 帰り道 楽しくしゃべった  
ずっと このままでいたいな

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 西原小学校4年 福岡 杏扇さんの作品より